

村上市長の当初の対応

日時 2018年9月14日

場所 嬉野市役所嬉野庁舎応接室

同席 山口卓也議員、同席者 D

(地域おこし協力隊員から相談を受けていた)

村上大祐市長：すみません。来てもらう形になってから。

同席者 D：第三者的な立会人ということで。

山口卓也市議：話はだいたいわかってらっしゃると思うんですけど。

市長：ちょっとねえ、まあ事実確認をもう一回確認しとけ(と)、担当課課長から話がありましたか？お話はしていただきましたか。そこの中で。

山口：事実確認は市役所内でされてないんですか？まだ。

市長：いや、しました。(山口市議たちが)来られる少し前、私も前段で話を聞いたので「おやっ」と思ったところは自分で調べてみました。課長にも聞き

取りをして、今対応をして、本人にも聴取も済ませました。

山口：私たちの事実は、(地域おこし協力隊員のAさんBさんの)

相談を受けて、私が確認したところでは不正の疑惑がある、と。到底見過ごすことのできない事実だったので、それについては「良くないな」ということで今回来ているんですよ。彼らは感情的にももやもやしているところがある、それを満たすためとかではなく、過ちは正すべきだと思いますし、今後このような形で(新幹線・嬉野温泉駅周辺の)まちづくりがされていくっていう不信感は改めるべきだと思っている。昨日も言ったと思うんですけど、市長にまずは自発的に改善をする、状況としていきなりわーっとなるのは嫌なんで、市長がちゃんとした事実確認をした上で、事実と良心に基づいてちゃんとした判断をしていただきたいというのが。

市長：これまでの流れでいくと、ずいぶん今後の計画も含めて、(嬉野)創生機構ありきで話が進んでいるものがいくつか見受けられました。そのについては「白紙」にしなくては行けないと。その中でもう一回ゼロベースで事業を見直して再構築を

しないことには、一点の曇りもないものにはならんだろうと思いますので、私はそのように指示をいたしました。(嬉野創生機構が) パートナーとしてやるべきことはやった、という適正な正当な業務と、そうでないものを今仕分けをしている最中でもあります。判断基準をどこに置くかは難しいところではありますけどね。山口：判断基準は公務員倫理だったり、不適切な部分についてはみなさん、それこそ(池田英信) 副市長とかですね、見る人が見ればすぐ分かると思うんですよね。そこはやはり、適正に、それこそ一点の曇りもなく。このままうやむやになって、まちづくりがされていくということであれば、一点の曇りもなくということにはならない。まずは、今こういった疑惑がある中で、市民の信頼も失う中で進めるのはどうかな、と。信頼をきちんと構築するためには、(嬉野創生機構で違法な長時間労働させられた地域おこし隊員の) 感情的な部分ではなくて、きちんとした対応というのが、それこそオープンにしていくべきだと。

同席者 D：こういうことがあったということを市民に知ってもらう、ということですよ。

山口：市長という立場で、組織のトップとして、組織を守るということがあることがあると思うんですけど、ただ、嬉野市のトップとして嬉野市のことを考えていくべきで。

市長：これまでのことを公表するべきだということですかね？

同席者 D：山口さんに相談した(地域おこし協力隊員の) 2人は、そこを望んでいるんですよ。

山口：私はそれを果たすためというわけじゃなくて、今後ほんとに一点の曇りもなくやっていくには、うやむやになってまだもやもやしたものが残っていると、うわさとか、変な目で「(嬉野温泉) 新幹線駅が、うわー疑惑の何かもみ消されたもん

ねえ」というのが10年間20年間続いていくのが想像できる。

同席者 D：少なからず話は世に出ているわけですからね。早めにこういうことが起きているというのを認めて、前(谷口太一郎市長)の時代からですけど、こういう対処したというのを言った方が傷は最小限なのかな、と。僕の個人的な思いですけど、あります。

山口：今後、どういうふうな対応を取られるのかというのは気になっているところで。それこそ、信頼がない中で、「やっぱり隠す。役所ってそういう隠すとかですよ？」いうことをしてしまったら、今、市長は全く(不正・疑惑に)ノータッチだと思っただけですよ。でも、それを市長が知った上で、もしちょっと隠すようなことになってしまったら、そこで初めて市長の責任になるのかな、と、私は思います。

市長：「内々の処分ではダメだ」ということですかね？

山口：普通は処分するじゃないですか、降格とか。それを、たとえばまちづくりずっと継続されるわけですよね。その中で何もなくてうやむやになっていく。

同席者 D：職員は（処分などで）対処されるかもしれないですけど、（嬉野創生機構代表の）嬉野創生機構代表、以下機構代表さんはそのままですよね？公表しない限りは。

市長：そうですね、ええ。そういう権限はなかけんが、今のところは。

同席者 D：（山口さんは機構代表さんと）昨日話されたんですよね？話して、僕「不正の疑惑」という話をしたらもう普通に認められて「認めます」と。それ全部、「（自分が東京の本業である映像製作会社会社名の仕事で嬉野市に）

おらんやったけん、（市職員 Aに）作ってもらってる」という話をされて。

早々に認められたので、それこそもう、最初っからみんな了承のもと、録音してるって話を進めてたんですけど。普通、通常こういう時って、嚴重処分とか降格とかいろいろな処分のランクがあるんですけど、普通マスコミ各社にリーク（※正しくはプレスリリース）とかされるじゃないですか、そういうふうな流れになるのかなと私は思っているんですよ。

市長：処分を公表するということですね。プレスリリースを出して、公表をする、という流れではないか、それが筋ではないかという。分かりました。

山口：いや、そういうふう（処分して報道発表）にされるんじゃないかな、と、むしろ思っていました。

市長：その辺はちょっとこっちのことではあるけん、仮に今そのつもりがあったとしても、それはしますとは言われんけんが。うーん、なるほどね。適正な業務の範囲のものもあるし、そうでないものもたぶん、ある意味では創生機構と関わったこと全てが不正ではない、と思っはいます。厳正に仕分けないといけない部分が。どの辺の所が疑惑と思われているのか丹念にはやっぱり聞いておきたいと思ったので、こういう話を持ったんですけど。

同席者 D：議員が思われたのはどこの部分で？

山口：不正が、まずですよ。市役所の職員（市職員 A）が契約相手方の書類を作るとかですよ。簡単な工程表とか、簡単な書類の下地作って渡すとかのレベルではなくて、こちら（市）が委託した創生機構の（業務）内容についてまで。

市長：見積もりの書類を作ったこと。

山口：いや。

市長：そこまでではなくて？

山口：見積もりの書類。（嬉野温泉駅周辺の理想的な姿をイメージした絵巻の）看板とかですか？

市長：看板とか。

山口：その証拠は私は知らないですけど。そういうのはあくまでも疑惑ですけど。
市長：そうなんですよね。それは、うーん。たとえば入札とかプロポーザルとかでやるものの、そういうものの、ある意味では仕様書とか募集要項というのを作る立場の市が、それに応じる募集要項の書類を書いていたら一発アウトですもんね。そういうのがあったのかどうか。

山口：募集要項を？

市長：市の事業だから当然「このような方を募集してます」という募集要項とかを作るんですよね。その募集要項を作るのは、当然市の立場として、その事業に対する応募書類も創生機構の分をこちらで書いてたらもう絶対アウトなんですよ。

山口：アウトでしょうね。

市長：それはあったのかな、ていうのが。

山口：それは私は知らないですけど、まあ、本人。

市長：そういう性質のものじゃないんですか、何か、（山口さんが）聞いたっていうのは。ちょっと、そこがクリアじゃなくて。何か応募書類を、書類を作成したというのはどのレベルの書類を作成したのかっていうことですよ。

同席者 D：僕は同じ時期に相談というか。僕も今までの流れとかがわからずに、調べさせてもらった。これが（嬉野温泉）駅前のガイドライン作りの、作っている途中のやり取りみたいなんですけどね。

市長：うんうんうんうん。

同席者 D：これは協力隊 A さんが（メールを福岡市の設計会社 会社名、個人名 社長に）送ってるんですけど、「市役所の中で通りやすい」とかですね。メールのやり取り（Cc:）の中に（市職員 A が）いらっしゃるわけですよ。これはいいんですか？

山口：「ガイドラインは創生機構で受注しているので、正式に提出納品検査まで必要。機構代表が月内に提出することが理想」（市職員 A の Facebook メッセージ）

同席者 D：このやり取りの中に入れてらっしゃるんじゃないですか。

市長：うーん。ガイドラインねえ、駅前のガイドラインは。市役所の事務が正直分からん部分もあるけんが、どこまでが、私の調査にも限界がある部分があって。月内提出ですね。

同席者 D：（市職員 A が Facebook メッセージグループに）入られているからですね。（景観ガイドラインを）作っている途中段階じゃないですか。

市長：ああ、これかあ。これは、うーん。

同席者 D：（やり取りの中で協力隊 B さんは、募集要項で「縛り」をかけることで嬉野創生機構が）自分の首を絞めないようにって。私が相談受けて、彼らが言った話は

ガイドライン作りの中で、将来駅前の管理会社として（嬉野創生機構が）入札する時に創生機構しか手を挙げられないような条件とするということで話が進められていて、自分たちはその事務方をやっていた、と。その中で疑問に思うところが多かったので、山口議員と私の方に相談されたということなんですよ。

山口：これは（地域おこし協力隊員＝一般職非常勤の公務員の）守秘義務違反とかではなくて。

同席者 D：疑問に思われて、相談を。（守秘義務とか）わかんないじゃないですか、若者とか。

市長：これからやけんが。確かに過程の所では不正を疑われるところは。罪状でいけばまだ未遂の段階じゃあるですもんね。これまでも既に予算執行したものについてはやっぱりちょっともっと調べんといかんと思うとですよ。これ（景観ガイドライン）は協力隊 A さんと協力隊 B さん、両方作ったんですよ。

山口：駅前の（管理会社の収支計算書）数字を市職員 A さんが（機構代表に）送っている。市職員 A さんはみんなに送っているんですよ。

市長：難しかね、これは。

同席者 D：市職員 A さんがファイルをみなさん（Facebook メッセンジャーの 4 人のグループ＝機構代表、協力隊 A さん、協力隊 B さん）に送られているんですよ。このファイル名を開くとですね。これが出てくるらしいんですよ。駅前の管理会社の数字面のたぶん計画書だと思うんですけど。

市長：これが、このリンクだと。これはスレッドなんですかね？機構代表さんと市職員 A さんと協力隊 A さんと。

同席者 D：これは分かんないんですよ。1 枚だけなんで（実際は 4 人のグループに送信。）機構代表さんと市職員 A さんしか。だけどあの 2 人が知っているってことは入っているんでしょうね。

市長：うーん。これは。ちょっと待て、これは。これは何だ。具体的に数字が出とんや。私も見たことのない資料だな、これ。

山口：日付が 6 月 8 日。

同席者 D：何で市役所が駅前の収支計画を出さないといけないんですか？今の時期。

山口：プロポーザルの入札とかあった時に。

市長：ちょっと待て、これは。

山口：応札する際の資料なのかと。で、これは、これを見てからは。

市長：こんな先まで 2051 年、30 年の収支計画。

同席者 D：すごいですね。

市長：なんなんこれ。

同席者 D：新聞記者としても何か調べたくなるでしょ。

市長：いやいや、もう、ちょっと、何か、ねえ。

同席者 D：普通じゃないですよ。ガイドライン作っている段階での（通常の）やり取りじゃないですし。

市長：これは。

同席者 D：これはあんまり表に出ないように、最小限の傷でしないと、嬉野の駅前が悪評のままオープンしてしまう。

市長：これは（嬉野創生機構に嬉野温泉駅周辺整備関連事業に）絶対関わらずわけにはいかんもんね。

同席者 D：これは絶対クロだと思います、僕は。

山口：聞くところによると今度、もうそろそろプロポーザルで募集される、たぶん、それがこれだと思うんですね。

市長：ちょっとこれ（スマートフォンで）撮らしてもらってよかですか。しかし、これは。

山口：これを偽造しているとかそういう事実は全くない。これを見たときに、相談してきた内容について証拠として足りない部分があるとも思いますけど、その信憑性というか、こういうのが少しでもある中で、そういったいろんな看板の話とか、そういったことの信憑性はさらに深まって。

同席者 D：市職員 Aさんが（収支予測を）使ってくださいということは、作ったということですよ？

市長：そりゃ、そうですね。それと考えるのが普通ですよ。

同席者 D：（市職員 Aから機構代表へのメッセージ）「今年度の契約内容。これで議会に上程しますのでよろしくお願い致します」。内容を教えちゃダメですよ？

山口：今年の予算で、ああ。

市長：これでも。収支計画は議会に上程しとらんですもんね。

山口：予算もこれで作って。

市長：これを念頭に何らかの議案を出しとる可能性はありはすっどん。私すら見たことないものなので。何やこれというのが正直。

同席者 D：これは決定的だったんですよ。

山口：これはいけない、と。

市長：えらい、細こうしとんな、こりゃもう。ちっとお。あかんわ。ダメですね。

山口：信頼回復にも努めてほしいです。市役所の問題。それであの写真（東京ベイコート倶楽部ロイヤルスイートでの酒食、気泡風呂）があるからこそなおかつ怖い。

市長：私もほんとに。

山口：それだけだったら全然。

市長：軽率じゃあ、あったなあ、と。うーん。しかし、私はもう、やっぱりこう業者との、うーん距離を取る中では、極力もう、あそこではもうビジネスの話しかなかったですし、ええ、まあ、「ぜひに」って言ったら「俺は朝早いから」と言って帰りましたけど。市職員 A も引っ張って帰るんやったな、と。「まだ、飲むっちゃうけんが」

山口：いろいろ、公務員倫理的なもの、不適切な事務処理と、もっと怖いのは金銭的な、着服とかまでいかない着服っていうんですか、もう、そういうのじゃないのかって思わせられるんですよね、話を聞いているとそうですし。実際 27 万円で受注している（景観ガイドラインの仕上げを下請けに出したアービカルネットの嬉野創生機構に対する請求書）資料があったり。

同席者 D：ガイドラインが（嬉野創生機構が）300 万円で受注しているのを（アービカルネットに）委託して 27 万円で作らせているんですよ。

山口：再委託ということですよ。それはまあ、普通はまあ再委託というのはいくら得ると思うんですけど。（※実際は約款で再委託は禁じられている）

市長：ガイドラインは発注した業務か。

山口：もう（平成 29 年度）決算。だから本当は決算（認定）で（問題にしないといけない）。

市長：アービカルネットね。ちょっと待て、270 万円じゃなか、27 万。

山口：（請求書の日付は 2018 年）4 月。去年（＝17 年度）の業務ですよ。そもそも。18 年 3 月までの。

市長：ガイドラインは？

山口：平成 29 年度の業務になっていると思います。

市長：平成 29 年度よね。

山口：（アービカルネットの）見積書が 2018 年の 4 月で。

市長：うーん、なんで。なんや、こりゃ。

山口：最悪業務が 4 月になったとしても 3 月に終わっていたというのはあるかもしれないですけども。普通じゃない。いろんな、はてなマークと「大丈夫なのかな」という、このままこれを素通りするのはちょっとできんですね。じゃ、一定の改善命令なり出されるのはもちろんだと思います。このまま、そのまま同じような仕事をずっと市役所内で続けるというのはまずあり得ないので、「改善すべき」という指導はされる。

市長：査定の時に「高すぎやせんかっていう話はいっぺんしたことがあつとですよ。ええ。しかし、300 万が 27 万になつとった。

同席者 D：ちょっと常識では考えられないですね。

山口：もちろん補助っていうあれなんで、+アルファでどのくらいかかっているのか。創生機構にどのくらいの成果品が来て、嬉野市にどう納品したのか詳しく調べていったらあれでしょうけど（※実際はアービカルネットから送られてきた 11 ページと国土交通省の資料集 93 ページ、計 104 ページをそのまま納品）。こういうのを見ていると、そう思わざるを得ない。

同席者 D：それは（協力隊 A）さんが総務省（地域おこし協力隊サポートデスク）に提出された労働環境に対する（申し立て）。

山口：これはこれでもうちょっと。

同席者 D：総務省に出されたんでしょ？

市長：総務省に。

山口：これがたぶん、地域おこし協力隊の。

同席者 D：そもそも、（私たちが）相談を受けたのはそこだったんです。

山口：それで見え隠れしたのがこれ（不正疑惑）だったんですよ。

市長：2人にも言ったとぼってん、やっぱ、そこで（嬉野創生機構と）労働契約を結ばんやったっちゃうのが最大の失敗じゃ、あったのかなっちゃう気もすつとですよええ。

（※地域おこし協力隊は市と契約している 公務員なので指摘は当たらない）

同席者 D：でも嬉野的にはですね、その2人のおかげでこういうものが発掘されて、早めに分かってよかったと思いますよ。これがそのまま契約（嬉野創生機構が管理会社に収まる）して決まって任せた後に膿が出てしまったら、もっと大ごとになって

山口：私利私欲で。そういったものがあつたら、ダメですね。そういった意思はなかったのかもしれないですけど、事実として疑惑だったり、信頼を損ねる行為自体が公務員の倫理上問題があると思います。それだけで終わればもう一番いいですけど。これを見たときには私もショックでしたから。

市長：これ何言うとなんの。

同席者 D：（協力隊 A）さんと（機構代表）のやり取りが音声で残っているやつですよえ。

山口：それ聞いて僕も何かわあっと思って、相談を。

同席者 D：パワハラですよえ。

山口：それはもう部課長にも

にも読んでもらってます。それで（地域おこし協力隊員の）待遇改善については部課長も了承をさせていただいて、これまでの事実と相違がある、と。大きく相違があるということで、管理ができていなかった旨、（地

域おこし協力隊員の) 2人に謝罪をされてですよ、まあ、今後もということだった、というふうに理解してますし。

市長：これは早い段階からでも、彼ら2人は(上司に相談していた)？

山口：そうなんですよ。

市長：そういうこと(違法労働状態)をまあ知りつつ、っちゅうことやったんですね。

山口：結構早い段階でシグナルは、元部長とかいろんな方に相談をされて、いろんなシグナルはあったそうなんですよね。ただ、もう、ずっと前から7月の段階から(上司に)話をしていたという話も。それをずっと押さえつけ、押さえつけ。もう。

同席者D：その段階から知ってる上の人はいたわけですね。はっきりとはわかってなか

ったですけどね。

山口：相談して、たぶん個人名(元)部長に相談して、担当部長とかいろんな話をし

て。話を聞いているというのは絶対あったはずなんですよ。そのシグナルをもう。今後、ここまで来て、これ何ですか。今後、これうやむやにしているものか。いやダメだと思います。社会的、着服とかあれば、全くもう刑事罰で調査対象だし。

市長：これまで(嬉野創生機構に)発注した業務の中でドローンの空撮とか使った、プロモーションビデオとか、あの辺とかは、割と適正な業務の範囲内で行われてました。それはもう、まあこんなもんだらうというな。ただ、このガイドラインの話はまあアウトですね。アウトですね。

同席者D：100パーアウトです。

市長：うん。

山口：それは、今後の契約に向けても。

同席者D：(市職員A、機構代表)の2人の中で話ができただけでしょうね。

山口：今後たぶん、今年ですよ。今年度中に業者の選定のプロポーザルされる予定だと。(市職員A)から機構代表に送られた駅前土地・建物管理会社の収支予測のエクセル表)これがその時に提出される収支計画書だっけの資料のもとだと思います。

同席者D：(嬉野創生機構の)業務についても(地域おこし協力隊員が)ボランティア

とか無料でやっていたらしい。

同席者D：動画撮影いくぐらいで予算組まれてたんですか？

市長：たぶん200、300万円ぐらいじゃないかな(実際は599万円4000円=住民監査請求対象)。クリエイティブなですね、求められるので、そこはなかなか、突き詰めれば高いかしらんですけど。

同席者 D：ここはいいと思うんですよ。協力隊 Aさんから相談を受けたときに、すごく冷静

だなと思ったんですよ。ここなんですけど「機構代表は）客観的に評価すると、極めて営業力の高いフリーの映像プロデューサーではあると、ただまちづくりは素人ですと。ブラフでキーパーソン連れてくるとか、嬉野のスーパー営業マンとして東京で活動してもらうのは強みだと思う」とか、ちゃんといいことも認めている。

市長：私もこう思います。うん。

同席者 D：実際の駅前開発では実績があるところがいいし、（旧）橋立旅館（を改装し

たカフェ・雑貨店「レンマ」）ひとつ、ろくに運営できないような（8月の売上げが客2人でお茶2杯800円という状況）経営者では無理じゃないかという（協力隊 A）の思いは、僕は一市民と観光に携わる経営者として、こういう人（機構代表）に嬉野の玄関口は任せたくないなと、こういう疑惑全部抜きにしてですよ、思

います。橋立旅館見てくださいよ、もう。大事なお客さん連れて行こうと思わないじゃないですか。近所の人から騒音問題で苦情も来てパトカーも来て、女性の裸の人が中にいたのをうちの親族見ましたし、それで謝罪に（機構代表が）この前来たんですけどね。

市長：やっぱ、ちょっとねえ。

同席者 D：僕は詳しい専門的なことわかりませんが、肩書としても駅前開発はこの人たちには任せたくないなっていう。

市長：期待した効果が全くなく、6月もあそこ（レンマ）のオープンでそれこそ、今（嬉野）茶時（＝お茶のイベント）やってもらっている（テイクアウト式の

「歩茶」のような、ああいう効果が温泉公園含めたまち歩きに回遊効果が期待して

ますということをお話した上での、そこは

まともに取り合ってもらえなかったなあ

という感覚は私もちょっと持ってて。うーん。

同席者 D：事業体としてどこで成り立ってんだらうという疑問はあります、最初から。

市長：出張から帰ってきて（オープン後）何日か後に来てみたときには、機構代表知人さんと機構代表知人君が2人でこう昼間っからビール飲みながらテラスにおったけんが、「おやっ」という違和感はちょっと持ちはしよったですよ。ねえ。

山口：市長としても、すごく大変だとは思いますが。

市長：これはもう、私の責任において、しっかり厳正に対処します。

同席者 D：（地域おこし協力隊員）2人の思いとしては僕らは聞いたんですけど、その

2人（市職員 A、機構代表）を社会的に悪いことをしたということを出してほしい、と。そうじゃないと自分たちの方も安心してまちの中で活動できないです

し、機構代表さんにしても昨日（山口議員との会談で）も結構協力隊 Aさんにひどいこと言ってたんですね？

山口：なぜ、そう思うのかって言ったら、社会的に、ただの感情的なものなのかなって思うんですけど、なぜならば、今後活動していく上で、間違いがあったっていう証明ができないじゃないですか、客観的に。だから、誰を信じていいか客観的な、もう周りにはいる人たちが、たとえば協力隊 Aさんとか協力隊 Bさんが悪口を言われる、

とするとすれば、「いや、そうじゃないんですよ」て言えないじゃないですか。客観的な事実として公になってないと、自分たちが嬉野で活動もできんって、そういう不安があるわけですよ。だから、「（市職員 A、機構代表を）つるし上げた」とかそういうことではなくて、（自分たちが）間違っていないことを訴えていることに対して、周りの信頼の目をちゃんと回復したい、と。そのためには客観的にオープンにさせていただかないと、いけない。それはまっとうな、感情論とかじゃなくて、今後の不安含めてあられると思う。私も重々その気持ちも分かります。排除される気持ちとかもわかりますので。それプラスとして、もうこういう役所の体制は信頼が絶対できないですし、そういう過ちを認めてちゃんとやり直せるような市役所なってほしいですし、あるべきだと思ってますから。

市長：わかりました。うーん、そうね、うーん、まあ。

山口：もちろん、私も、その2人も今後の駅前整備に悪いイメージになるような、それは望んでいないんですよ。ただ、その、こういう事実と、（問題の）根源がどこにあったか、駅前周辺整備の事業でとかいうのは、私はちょっともう、嬉野市のマイナスだな、と、今後の駅前開発にとってもマイナスだな、と本当は思うんですけど、もっとオープンにせんばいかんとかもしれんですけど、（駅前管理会社の収支予測など）こっちの資料とか見る限りは。

市長：その辺の仕様書をこれから作っていく中でたぶん市内の業者に絞り込んでいくつもりだったんでしょ。市内でこれほどの情報にアクセスできて、なおかつ何となくいいんじゃないということになるとしたら、それはもう創生機構しかなかつたろうけんがですね。3年後ぐらいの発注となったときにですよ。2年後か。観光協会か、農協か、そのくらいしかなかけんが、市内で絞り込んだらですね。しかし、ちょっと、こらあ。

山口：ある意味、特権じゃないですか。だって、駅前の土地を管理、（市が嬉野創生機構に）低賃料で貸して、空室補償までたぶんする、そのテナントは民間事業者が貸していく、と。ある意味特権なんですよ。

市長：100年に1度あるかないかの事業でしょ、これは。

同席者 D：いろいろな目が入る事業体に任せないと、観光協会とか、DMOとかじゃない

と、こういうことがまた起きるかもしれない。創生機構といっても、機構代表さんしか

いないわけですから、今社員。

市長：そうですね、けんが、私はちょっとそこは不明を恥じんといかん。私も汚職事件とかやっぱりいくつか取材をして、50年に1度の（汚職事件となった）大町の学校の受注のあれなんかも、やっぱりそういう業者が何年か前からその事業聞き付けて少しずつ少しずつ入り込んできてるのが、形跡、あったんですよね。そこに、最初、町長も含めてみんな無自覚やったけんが、わがでこがんと（汚職事件の）取材しとって、下手にまあ同業者（映像制作者）やったけんが、機構代表さん、その前

（記者時代）からずっと知ったけんが、いかんやったねえっていうのも、ちょっとあったけんねえ。うーん、ちょっと。

山口：（開発事業者として）発注する前で、まだ間に合って良かったなあって。

市長：と思うしかないですね。

山口：まだ整備する前に、まだまだ「あら地」と同じなんで。それこそ、まだフラットだと思うんで、よかったなあって。

市長：（嬉野創生機構の前に嬉野市のまちづくりに関わっていた）オープンAの名前もちょっと出てきている。オープンAは最近嬉野には入ってきてないですね。

山口：ないでしょ。

同席者 D：排除されましたから、予算も付けないと言われて。

市長：なぜ、そんなことが起きたんですか。

同席者 D：そこは僕も分からないですけど。

山口：もともと、（駅周辺整備事業には）入っていないでしょ。

同席者 D：それこそ、観光、交流センターの改装と立ち上げと、スタートアップまでの店長として店長として来られた方さんがいてもらったですよ。その後、プラス1年間は店長として来られた方さんの人件費の予算とかもついたので、その後もう予算は付けられない、と。前（谷口）市長の時代ですけど、いうことで消えたんですよ。その時期から

確かに機構代表さんは嬉野入ってきました。

市長：そこがちょっと絶妙なタイミングですね。

同席者 D：改めて思えばですね。僕もオープンAに駅前開発とか思ったことなかったですし、谷口前市長はオープンAの本社（東京）まで行って相談までされてたんですよ。駅前開発についてのアドバイスのことを「自分たちも初めてのことだから」と言って、そこまでいってて、突然、その話、打ち合わせがなくなったという話は、僕は聞いていたんです、店長として来られた方さんから。その後に創生機構が立ち上がって、まちづくりとか。

市長：その点のところからもちょっと。

同席者D：何か感じますね。

市長：あれだけ、よく、馬場（正尊社長）さん本人も（嬉野市に）入ってきてくださって、私が（佐賀新聞社）在職期間中も含めていろいろお世話にもなったし。

同席者D：馬場さんに創生機構ができた話をしたんですよね。馬場さんは「地元の出身の人たちでそういうことやれるんだったら、町がそういう意向だったら、それが一番いいんじゃないですか」おっしゃってたんですよね。そこに執着はあんまりなかったようですね。

市長：なるほどね。

同席者D：「（嬉野温泉）駅の設計はしたいな」とは言っていましたけど。それは市が決めることじゃないんで。

市長：駅舎自体はあれですもんね。鉄（道）建（設機構）。

同席者D：その時期に入ってきたというのがありますね。

市長：去年の夏ぐらいやったですかね。（※実際は2017年6月1日）

同席者D：創生機構いつ立ち上がったんですか。

市長：その前の年（2016年）ぐらいに卵みたいなのができて、去年（17年）の夏ぐらいに、それこそ柴咲コウ（がカリスマ茶農家さんを訪問してうれしの茶を紹介した企画）の（雑誌）ディスカバージャパンをひっさげて、はなばなしく入ってきたような印象を持っていますけどね。まあ、デビュー戦としては満を持して、あれだったんでしょね。

同席者D：救世主現るといのような雰囲気でしたもんね。

市長：そうです。私もそのような雰囲気を感じてました、周りの人も含めて、まちづくりの人も、「ああ、これで一丁やれる」といような雰囲気は出てきた。

同席者D：僕自身そう思っていた。

市長：「いいぞ」といような雰囲気をちょっと感じたですもんねえ。

同席者D：実態がこうだったという。

山口：先にそれがあったかどうか、もしかしたら市職員Aさんはまちづくりを一手に担って、何とかこの創生機構で成功したい、させたいという思いで、悪意があったかどうかはわかりません。

市長：最初の時点ではなかったかしらんですけど。

同席者D：でもプロセスがアウトでしょ？

山口：それ（癒着）が慢性化してって、最初はもしかしたら自粛していた内容についても、じゃあ、こうやって創生機構の入札までの書類まで作るように、どんどん

どンドン、緩くなっていったのかな、と。そもそも、こういう疑惑を公務員が持たれることが、そこが一番の根底にある。

市長：私も市長に就任してから、最初は人事にはあまり手をつけんごと、機構改革で一気に手を付けるとしても、内情把握するまでは一切人事に手をつけんつもりでうーん、きた。彼（市職員 A さん）は長年ずっと事業畑において。

山口：応札者の数までも「何社ですか」と聞いてきんさるとですよ。そういうときも「ちょっと、それは」って普通に、いわんぎんたいかんけんですね。

市長：雑談めいた感じで聞いてくるでしょ。そこはねえ。ちょっとねえ。

山口：今後ちょっとどうやって落とすところをつけられるのかは気になる場所なんですけど。

市長：しかし、この過程に携わった（地域おこし協力隊委員の）2人も疑問を感じながらとはいえ、ある意味ではそこに携わってしもうとっけんが、そこはきっちり

（2人を）守らんといかんっていうのがありますよね。

同席者 D：守ってあげないと。そこは、僕は、第三者として心配です。

市長：いわゆる、そのう、何だろう、通報者の、公益の通報者、公益のために告発した人たちに、一緒くたに全部こう処分してしもうたら、結局2人も仕事されんごとなるけんがですね、ええ。

山口：それもあると思います。内部通報者制度じゃないですけど。それは市長が詳しいから。

市長：そこはちょっと言えば、少し伏せるような形に、ここに携わっているというところを伏せんといかんようになるけん、ちょっとそこで少し整合性の取らんばいかんところも、出てくっけんが、生のままバシャーツというわけにはちょっといかんやろうけんが。ただ、最終的にこれについてはやっぱりアウトやろう、と思うしそうなるらと細切れでも仕事は頼みにくくなるなあというか頼んだらいかんなあというのがちょっと、出てくるとですよええ。

山口：今は、（他の人に伝えるのを）止めてますけど、止めてます。それこそ、議員誰にも話してないですし、私は相談仲介者さんから言われて、協力隊 A さんと協力隊 B さんと。

同席者 D：最初、相談仲介者さんが相談受けたんですよ。相談仲介者さん一人じやもう抱えきれな

い問題だったらしいんですよ。で、山口さんと僕が、たぶん同じ時期くらいに相談仲介者さんからざらっと聞いて、ただ、僕もうわさとか信じられないから、「何かないんですか、証拠的なもの」と聞いたら、ダーツとこれが送られてきたんですよ。

市長：分かりました。

山口：今はやっていないですけど、これは公にしなければならないものだとも思っています。やりすごされても、何か。(市長の) 時間大丈夫ですか。(池田英信)

副市長とかはどうおっしゃられてました？

市長：まず、その業者と昵懇の仲で飲み歩くちゅうことそのものがあり得んと。その通りだ、と。

同席者 D：それ(市職員 A、機構代表の飲み歩き)は普段からやってましたからね、誰から見ても明らか。

市長：(副市長は)「そこがもうすべての入り口だった」っていう言い方してる。そうですねって。最近もねえ、この件とはまた別の件でもちょっと不用意な発言とかもちょっと多いので、私もちょっと「おごってはいかん」ということを本人には言いはした、ねえ。やっぱりおごりがあったのではないかな、と。今、一方通行

(化社会実験)の話も彼がやってるんですけど、ちょっとですね。

山口：ちょっときついつて言っていましたけど。

市長：一方通行の話も、正直昨年(2017年)から予算をつけとって、商店街いっちょいっちょに、文句も含めて聞いてこんやったかって。私がやることじゃないですからね。(私が)商店街一軒一軒回るとか。ほんとは。やっちゃいかんのですよ、ほんとは。でも、やらんといかんなと思って。もう、罵倒も受けながら、8月の土日、一軒一軒回りましたよ。そういうもんって。国の予算も使こうとっけんが後ろにはされんとですよって。その後のことは、私も知恵を出すけんがって、頼んますって言って、その帰り道に、確かもっと早うやらんやったとかなって、まちづくりのことならっていうおごりがあったんだろうなっていうのが。しかし、あれほど、まあ、(山口市議は)職員でおったけんが分かると思いますけど、もう「どこが痛いだの」(と)休まれる職員に比べたら、熱意持ってやってるだけに、ほんとに、頼りになる職員じゃ、あるとですよ。

山口：相当仕事も抱えて大変やったなあ、と。

市長：正直、そりゃ今回、おとがめなしにつもりはなかですけど、首切ることまでは絶対しとうなかとですよ。将来のために今回はしかるべき対応をせんばいかんかもしらん、と。しかし、そこでやる気、情熱を失のうてもろうても困るし、首は絶対切らさん、と。

山口：再起できる。転んでも立ち上がれるような嬉野市であってほしいし、そういう雰囲気は私は持っているつもりで。

市長：そがんいうてくれたら、よかです。や、もう例えばね、「懲戒免職にせんば承知せん」というようなことであれば、どがんしようかなっていうのもちょっとあ

ったとですけど。「そがんと（免職未満の処分）でも」と言うてもろたら、厳正には対処せないかん。

山口：今後活躍されたり、疑惑があったときに、何が本当に正しかったのかっていうのを証明できるようなものが、第三者的立場で公表されるっていうことが、それからの信頼につながる。処罰の内容については事実と内規に照らして、例えば「重い懲罰をしないと許さない」とか、そういうことは私は思ってないんで。

市長：（地域おこし協力隊員の）2人（が処分に）納得してくれると思いたいですが。それでも、ここに残って何かやってくれるっていうのであれば、当然（2人に最大限の配慮ばせんといかん、と）思ってますので。

実際は2018年9月21日の関係者聴取後も、地域おこし協力隊2人の違法労働、内部告発とも認めず、口封じの念書を書かせようとした。失敗し、現在は市の顧問弁護士を使って協力隊Aさんの代理人と争っている状態。協力隊Bさんは2018年9月末で退職）

「今、（肥前吉田焼の）吉田（地区）でやってる仕事を集中してやりたい」と、そういう話をされるんですよ。

同席者D：協力隊Aさんはね。

山口：じゃあ「やり返そう」とか、そういう思いがあってるわけじゃないんですよ。

同席者D：「早くこれ（東京ベイコート倶楽部での接待や嬉野創生機構と市建設・新幹線課の癒着疑惑）を片付けたい」と。

山口：今までずっと（機構代表）にマウンティングされて（自分の企画を）やれないから、そういうのじゃなくて、普通に自分は「（協力隊A）に吉田の今のプロジェクトをさせたい」と思っている。そこをするために、障害に、不安になるようなことがないように、本当にしてほしい。それはもう、この事実を公表して（市職員A、機構代表）がある程度の社会的制裁を受けるというのはもう必然なのかなという感じなんです。

市長：了解しました。至急、これは協議をします。ちょっと、こう、申し訳ないですね、何か巻き込むような形で。

同席者D：巻き込まれてないですよ。立ち会っているだけなんで。

市長：ははは、うーん。まあ、よく分かりました。その上で、まあ、これと本当別で（嬉野）イベント名、これからの。

同席者D：それは18日。

市長：やりましょう。

同席者D：ほんっとに僕は前向きな話をしたいんですよ。こういう話をする時間をもったいないな、と。

市長：うん、これは、この、これを断ち切るように、はい。あの、いたしますので、その上で、やっぱり、この駅からどうやってこの嬉野いっぱい魅力を体験してもらうか、人づくり、ソフトづくり、これはあですね、「永久機関」をまちにつくるというのが使命だと思ってますので、その時にですね、人を次から次へとやっぱりこう育てていかんばいかんというか、そういうのを個人プレーに任せるようなまちじゃダメ。

同席者D：それは信頼が大事だと思うので、やっぱり何でも正直に起きたことを認めて

前に進んでいかないとですね。ほんとに、変に蓋したら。

山口：信なくば立たず。

市長：うーん、ほんと。

山口：本当その通りだと。

市長：分かりました。これ、(収支予測などの)資料は(もらえないか)？

山口：いや、いただけないです。

同席者D：あの(地域おこし協力隊員の)2人の許可が取れてないので。

市長：いや、この仕様(景観ガイドライン)はあれですね、ええ、やっぱ本人(地域おこし協力隊員の2人)たちがまとめて、管理をしとった、と。

同席者D：(2人の)パソコンに残っていた。

市長：パソコンにあった。そのプリントアウトですね。そういうのがちょっとあるんやったらですね。分かりました。それを含めてちょっと協議をいたします。

同席者D：いろいろ起きますねえ。

市長：流れが、流れが悪いなあ。はははは。

同席者D：前(谷口太一郎市長時代)の方の流れではあるからですね。

市長：そこは、体力踏ん張りは利くし、それは今のうちにしかできんこともあるし私もそんなに苦労はせずにこの(嬉野市長の)座を射止めているわけですから、4カ月程度じゃ、そんなもんは苦労とは言わんので、そりゃ、そんな中でもいろいろありはしたどんですね。やっぱり、今は雑巾がけのつもりでいっちょいっちょやっていかんばいかんと思うし、それこそやっぱり前(谷口)政権の後継指名を受けてるわけじゃなかですけど、どうしても後継とみられておりはすっどん、やっぱりこう、そこをですね、どう悪いものを断ち切りはしないとイケないな、と。予算査定もやっぱり恐れず突っ込んでやってるつもりですし、(公共施設の)使用料の話とかも今回(9月定例)議会に上げて、受益者負担っていうのを、全然このまちの考え方になかったの、そういう意味で甘やかして、長期政権ゆえに保身でこう適正負担を求めてこなかった。緊縮財政で切り詰めて切り詰めていくしかなかった。佐

賀新聞式経営の弱点でもあると私は考えているんですけど（笑）。ふふ。まあ、やっぱりそういうところですね。

市長：私が（市長選に）立った理由もそこは社会正義の実現がやっぱり新聞記者として奉職してその、

私の最大の目標だと思っていますので、当然今回の件なんて新聞社の人間だったらもう当然取材して「おかしか」って言っているわけですから、うーん、まあ、ちゃんとそこは実践をしていこうと思います。意志を持ってやらんとね、いかなですねやっぱり。や、もう、だから、そこはしかっとやりますので信頼していただいて、まあ、その中で、立場の中でも少し制約がかかるのはあるとは思いますが、基本方針は共有はできたと思っていますので。

山口、同席者D：ありがとうございました。